仁楡会病院

来年8月 南区から豊平区へ移転 手術・リハ・透析をより充実

札幌市南区にある医療法人仁楡会の仁楡会病院（丸晋太朗理事長）が豊平区に移転することになり、**新病院の建築工事**が3月に始まった。

移転先は豊平区中の島2条7丁目にある北海道科学大学教育・研究支援センター跡地。新病院は地上5階建てで延床面積は6400平方メートル。旧病院のおよそ1・5倍の規模で、**来年8月1日に開院を予定**している。

▲移転先（豊平区中の島2条7丁目）

新病院の特徴のひとつは人工透析を従来の44床から60床に増やしたこと。手術室も従来の2室から3室に増やし、将来的には手術支援ロボット「ダヴィンチ」導入も視野に、余裕あるスペースを確保する。

もうひとつの特徴は、100平方メートル超の広さの**リハビリ室（5階）の設置**。屋外テラスも併設し、理学療法士2名体制で、前立腺がんや膀胱がん、腎臓がんなど長期入院の患者向けに機能維持を目指したリハビリを提供する。

そのほか旧病院では2室しかなかった個室を21室（特室を含む）に増やし、4床室もゆとりをもたせてアメニティ向上を図る。

▲来年8月開院予定の新病院

「新病院では、**手術・リハビリ・透析を充実**させ、より地域医療に貢献できる体制にしたい」と丸理事長。